

平成19年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

## フタバズキリュウとの出会い

館長 藤野 龍宏

4月17日、上野の国立科学博物館の本館が新たに「日本館」としてリニューアルオープンします。3階北翼「日本列島の生い立ち」に行くとフタバズキリュウに会うことができます。

実は、私は学生時代にこのフタバズキリュウのクリーニング（岩盤から化石を掘り出す作業のこと）のアルバイトをしていたことがあります。

当時私は考古学専攻の大学生（2年生？）でした。クリーニングの対象は、昭和43年、いわき市内で高校生の鈴木直（すずきただし）氏が発見し、国立博物館の古生物学者長谷川善和氏が発掘した首長竜のほぼ完全な骨格でした。どういう経緯か、クリーニング作業の依頼が大学の考古学専攻課程にあり、先輩2人に誘われて参加しました。暑い夏の盛り、今の新館（「日本館」オープン後は「地球館」と呼ばれるそうです。）の位置にあった古い建物（名称は忘れたが、「科学」分野の展示館だった。）の1階展示室の奥の部屋にドーンと置かれた岩の塊は、長くつながった椎骨、ばらばらの肋骨、ひれのような上腕骨などが、浮き出ており、その上に人間の頭と同じくらいの頭部の化石がちょこんと置かれていました。

たがねとハンマーで化石を覆う石をたたき、石くずをブラシで払い、弱い部分（骨の外面は比較的強かったが、断面の骨髄が露出しているところは弱い傾向があった）にアクリルエマルジョンという樹脂を浸透させて補強する。クリーニングの途中でたくさんのサメの歯が発見されることから、この化石の主はサメに襲われて力尽き、海底に沈んで化石になったと言われています。想像図などでも、サメに襲われている場面が描かれています。

それから35年が経過、昨年、新たな展開がありました。県立自然の博物館の坂本学芸主幹にこの話をしたことから、現在群馬県立自然史博物館の館長をしている長谷川善和氏と連絡が取れ、英文の資料をいただきました。その資料には、発見から38年後の昨年5月、フタバズキリュウが正式に新種として認められたということが書かれていました。資金不足等により、海外の化石資料との比較研究が進められず、海外の資料に詳しい一人の研究者が加わったことによって、ようやく新種「フタバサウルス スズキイ」として世界に報告できたそうです。

研究に時間を費やした県内の例では、埼玉古墳群の稲荷山古墳の鉄剣があります。昭和43年発掘、10年後の53年金錯銘の発見、15年後の58年国宝指定。墳丘は38年後の平成18年に一応の整備が完了。しかしながら、古墳群全体の整備と調査研究には今後何年かかるか見当も付きません。

博物館の資料をめぐるタイムスケールは、せいぜい80年程度しか生きられない我々人間のスケールをはるかに超えています。フタバズキリュウに言わせれば「8500万年に較べれば38年なんてほんの一瞬さ。」と言うに違いありませんが……。皆さんも、ぜひ私がクリーニングしたかわいいフタバズキリュウに会いに行ってください。私も数年ぶりの再会を楽しみにしています。

最後になりましたが、友の会の皆様には、引き続き博物館への御支援御協力についてよろしくお願いいたします。

# 友の会・平成19年度活動計画案

5月20日(日)の総会にて、ご決定いただきたいと考えております。

## ◎活動の原則

1. 毎月1回のイベント(講演会・見学会)を原則とする。
2. 博物館講座(仮称)、学芸担当者とのお茶の会を上記以外に行なう。
3. 社会貢献としての意味も視野に入れる。

## ◎イベントスケジュール

- 4月22日(日) 講演会「卑弥呼の時代と東国の古墳」 講師・館長・高橋一夫氏 (決定)
- 5月20日(日) 講演会「最新の邪馬台国位置論」  
講師・朝日新聞元編集委員・高橋徹氏(決定)
- 6月10日(日) 見学会「埼玉の古塔めぐり」 =金鑽神社・安楽寺・慈光寺・喜多院=
- 7月14日(土) 講演会 特別展「旅と観光」関連
- 8月 見学会「最新出土品展」
- 9月22日(土) 講演会「これだけは見ておきたい日本の仏像ベスト10」
- 10月 見学会「しもつけ風土記の丘」周辺
- 11月 講演会 特別展「お伊勢さん」関連
- 12月 見学会「秩父の文化財」
- 1月 見学会「県北の文化財」
- 2月 見学会「群馬県立博物館」周辺
- 3月 講演会「埼玉のレッドデータブック」  
講師・埼玉県生態系保護協会から(今後交渉)

## ◎博物館講座

- 初心者のための鑑賞法入門講座(2時間×2~3回をイメージ)  
(例:名剣、能面、甲冑、古陶、庭、民俗関連、副葬品、鏡~)
- 古文書読み方講座(前回の岸学芸主幹の特別ミュージアムトークの際に20人ほど開催希望あり)

## ◎特別イベント

- 遺跡発掘現場見学会
- お祭り見学
- 学芸担当者との懇談会
- 外国人対象の講座、歴史案内ツアー

<以上が理事会案です。皆さまのご意見、博物館との協議により、今後、変更することもあります>

## 理事会からのお知らせ

### 1. 博物館の人事異動について（敬称略・（ ）内は前職）

#### <新任>

- ◎館長 藤野龍宏（市町村支援部参事） ◎副館長 橋本 整（教育総務部財務課調整幹）
- ◎副館長 宮崎朝雄（市町村支援部生涯学習文化財課副課長）
- ◎主席学芸主幹 昼間孝次（県立さきたま史跡の博物館学芸主幹兼県立嵐山史跡の博物館学芸主幹）
- ◎主席学芸主幹 井上 肇（市町村支援部生涯学習文化財課主幹）
- ◎担当部長 岡田 進（県立総合教育センター担当部長）
- ◎学芸主幹 石岡憲雄（県立さきたま史跡の博物館学芸主幹）
- ◎学芸主幹 杉山庄司（主任学芸員）
- ◎主任 桑原範夫（県立学校部高校教育指導課主任） ◎主事 西尾英一（所沢中央高校主事）
- ◎主任 金子雅則（県立浦和図書館主任）

#### <退職>

- ◎館長 高橋一夫 ◎主席学芸主幹 小久保徹 ◎学芸主幹 飯塚好 ◎学芸主幹 斎藤修平

#### <異動>

- ◎県立さきたま史跡の博物館館長兼県立嵐山史跡の博物館館長 水村孝行（副館長）
- ◎教育総務部総務課報道幹 樋田明男（副館長）
- ◎県立自然の博物館副館長 沼野 勉（主席学芸主幹）
- ◎県立学校部高校教育指導課主査 榎原健一（主任）
- ◎市町村支援部生涯学習文化財課主幹 兼子 順（学芸主幹）
- ◎県立文書館学芸主幹 岸 清俊（学芸主幹）
- ◎教育総務部福利課主任 普川良和（主任）
- ◎浦和西高事務室長 森田貴雄（担当部長）

### 2. 友の会の担当について

◎上記の異動により、当会をご担当いただく「企画担当」は次の方々となりました。

石岡憲雄さん 今泉泰之さん 加藤かな子さん 金子雅則さん

◎これまで、企画担当としてお世話になりました岸さん、榎原さんは上記のとおり異動され、鈴木さんは同じ館内ではありますが資料調査担当へ移られました。

☆これまで、生まれたての友の会を温かくご指導いただきました方々に厚くお礼を申し上げ、今後のご活躍をお祈り申し上げます。ますますのご友誼をもお願い申し上げます。

## 友の会ブログを開設しました。

博物館や友の会の活動を発信するだけではなく、会員の皆様や博物館に関心を持ってくださる多くの方々の情報交換や交流の場となるような構成を目指します。 URLアドレスは下記の通りです。 <http://hakutomo-saitama.at.webry.info/>

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会ブログ

県立博物館ホームページの友の会欄からもリンクされています。閲覧されてコメント欄でご意見、感想など積極的にお寄せください。

また友の会専用のeメールアドレスも設定いたしましたのでお問い合わせや連絡の際にご利用ください。

[hakutomo-social@memoad.jp](mailto:hakutomo-social@memoad.jp)

(このアドレスは会員のみ公開)

## 友の会Webチーム大募集

友の会ブログの企画・編集・テクニカルアドバイザーを会員の皆様から募集します。楽しいブログ作りにお力をお貸し下さい。関心のある方は下記メールまでご連絡ください。

[hakutomo-social@memoad.jp](mailto:hakutomo-social@memoad.jp)

5月20日(日)午前、総会を開催いたします

ぜひ、ご出席ください

5月20日(日)午前10時から、博物館講堂にて、友の会の総会を開催いたします。会員の皆さまは、ぜひ、ご出席のうえ、18年度の実績・決算、19年度の計画・予算について、ご審議くださいますよう、お願いを申し上げます。

特に、この友の会は博物館から経済的にも人的にも支援をいただいていない状況をご理解のうえ、会員の方から、ひとりでも、一日でも多くのご協力をいただくにはどうすればよいかについてのご提言をいただきたく、よろしく、お願い申し上げます。

会員数 228 名 (3月31日現在)

初年度に、これだけの方がご入会いただきました。博物館を盛り立ててゆこうという、あたたかいお気持ちで、ここに、これだけ集まりました。ご賛同をいただきましたことに、厚くお礼を申し上げます。

「数は力なり」という言葉もあります。これからはますます、仲間をふやし、博物館を応援するちからになりましょう。「和は力なり」も実現しながら～

平成19年5月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

## 戸場口山古墳の謎

歴史と民俗の博物館 専門員 駒宮史朗

歴史や民俗に造詣の深い会員諸氏ならば、一度は「埼玉古墳群」を見学したことがあるでしょう。間近に見る古墳の迫力と雄大なスケールに圧倒された人も多いはず。現在円墳1基を含む9基の100メートル級の大型古墳が国の史跡に指定されています。

稻荷山古墳出土鉄剣の115文字の金象嵌銘文や出土遺物の検証によって、古墳時代及び古代史研究は飛躍的に発展しました。所が、その実態がわかっていそうでわからないのが埼玉古墳群なのです。物事には始めと終わりがありますが、埼玉古墳群は如何なる変遷をたどるのでしょうか。最初に築造された古墳は、古墳群の形成序列や出土品からみて稻荷山古墳と見て間違いないでしょう。それでは最後はどうなったのでしょうか。その謎を解く鍵を握っているのが、忘れられていた無指定の戸場口山古墳なのです。

「トバクチ」とは広辞苑にも出ている言葉です。埼玉ではトバックチ、トボクチとも言われている「入り口」のことです。戸場口山古墳は古墳群の南南のはずれに築かれており、渡柳（わたりやなぎ）3古墳と言われている古墳の一つです。すなわち戸場口山古墳→中の山古墳→奥の山古墳と順に並んでいるのです。古墳の名前にもちゃんと謂われがあるのがわかります。

この古墳が注目されたのは最近のことですが、『新編武蔵風土記稿』には石棺や大刀が出土したことが記録されています。また大正年間には畳2～3枚分の大石が掘り出されており、おそらく大石は横穴式石室に架工された緑泥片岩の天井石と思われる。現在、古墳の跡には家が建っています。

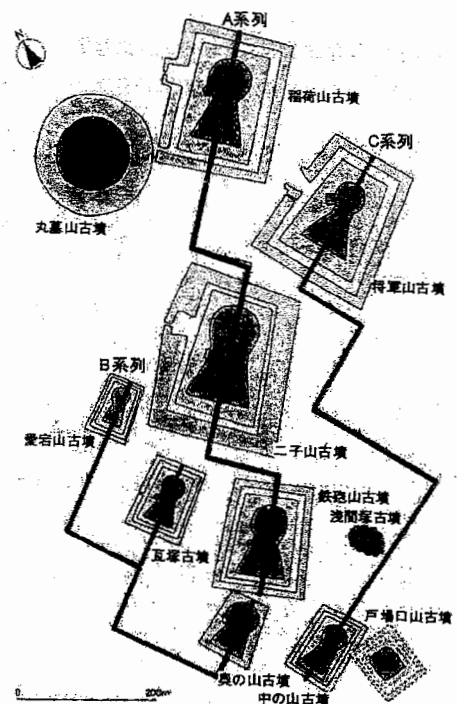
昭和63～平成2年の範囲確認調査では、古墳は一辺42メートルの方墳で、しかも幅約8メートルの中堤帯を伴う二重の周堀が巡っていることがわかりました。墳丘の高さは不明ですが、堀の規模は内堀で幅約7.7メートル深さ1.2メートル、外堀は幅約8メートル深さ1.5メートルとなり、外堀を含めた古墳の規模は約88メートルを誇る堂々とした構造でした。

この調査で①二重の周堀を備えていた。②周堀が中の山古墳の周溝を切っている。③主軸が他の古墳と大きくずれている。④石室には凝灰岩質砂岩が使用されていた。⑤中堤帯の構築には版築工法が行われていた。⑥埴輪は伴っていない。⑦周溝から出土した須恵器から築造時期は7世紀中葉と推定される。等の新事実が明らかになりました。

前方後円墳の消滅後に、群内の有力古墳が方墳に代わる構成は、千葉県竜角寺古墳群や群馬県総社古墳群と共通しています。特に戸場口山古墳は前代の墳墓をの周堀をを削ってまで、敢えて古墳を築く意義は何であったのか。この重要な問題の裏には、さきたま政権内部に大きな変革があった事が隠されているの証でもあるのです。

この他にも、さきたまの首長は何処に居館を構えたのか、政権を支えた集落はどのように分布しているのか、埼玉古墳群築造以前のさきたまは、安閑記の記事と古墳群の動向は、古墳消滅後のさきたまは、万葉遺跡さきたまの津は、小埼玉沼はどこか等々、わからないことだらけです。

折しも「埼玉古墳群を世界遺産に」の気運が盛り上がりつつありました。埼玉の貴重な文化遺産を世界に知ってもらえたら何と素晴らしいことだろう。さきたまの歴史は東アジアの動向とも密接です。隣接の古墳や消滅した古墳にもスポットをあて、問題を一つずつ解明して東アジアの歴史の中に位置づけたいと考えています。



戸場口山古墳の位置

この「友の会」は、デパート型の友の会ではありません

だから「ボランティア」が必要なのです

#### 友の会はどこでも同じなのですか

「友の会」という名前のものには2種類あります。デパートの「友の会」、これはデパートの、デパートによる、デパートのための「友の会」です。お金も事務担当者もデパート持ちです。なぜ、そういうものが必要か？ デパートがお客さまを困りこみたいからです。博物館の友の会も、以前からあるものは、ほとんど、このタイプでしょう。

私たちの友の会はそういうタイプではない「友の会」です。博物館を応援する者の、自分たちによる、博物館と自分たちのための「友の会」です。博物館のために～と考えて活動していますから、ご好意をいただいているはいますが、お金はいただけていないし、人的な援助もありません。

#### お金と人がないのをおぎなうのは～

デパート型の友の会であれば、会員は特典を受けるだけです。しかし、当会はそのタイプではありません。お金と人がないのはどうするのか。足りないところは会員の「無償のボランティア活動」でおぎなうしかないので。ただ、活動を実行する人たちも会費を払っている会員です。片方が奉仕をして、片方はそれを受けるだけでよいのでしょうか。もちろん、ご入会いただくだけでもありがたいし、ご遠方とか健康上の理由で「ちから貸し」が出来ない場合もあるでしょう。全部の方にとは申しませんが、出来る方には、ちからを貸していただきたいのです。

この「友の会」はそういう「ちからの貸しあい」でしか生きる道がないのですから～。

#### ボランティア活動として「友の会へのちから貸し」にご参加を！

ボランティアというと福祉、介護です。大切な、尊いことだと思います。しかし、友の会に対するボランティアも、ほかの人たちの楽しみをふやすことです。よろこんでいただくことです。

福祉、介護に負けない、立派なことだと思います。社会貢献のひとつです。友の会へのちから貸しは、友の会の仲間へのためであり、友の会のためであり、博物館のためでもあります。

#### どれだけ、ちからをお貸しいただけるか、お教えてください

毎日、博物館へ出勤してほしい～などというわけではありません。一月に一日か半日を、一度か二度か、あるいは三ヶ月に一度か二度か～など、あなたのご条件をお教えてください。そして、友の会のために、博物館のために、実際にしていただくことをご相談させてください。

#### ☆ご連絡はFAXまたは郵便にて～

担当 〒340-0056 草加市新栄町1000 新栄町団地1-7-501 中村 均(FAX048-941-0440)

# 5月20日（日）午前、総会を開催いたします ぜひ、ご出席ください

5月20日（日）午前10時から、博物館講堂にて、友の会の総会を開催いたします。会員の皆さまは、ぜひ、ご出席くださいますよう、お願いを申し上げます。

ご審議いただく事項は次のとおりです。

1. 18年度の活動実績報告の承認
2. 18年度の決算報告と監査報告の承認
3. 19年度の活動計画案の承認
4. 19年度の予算案の承認
5. その他

<人事関係は任期が2年であるため、今回は議題ではありません>

1年に1度の総会です。ぜひ、ご出席のうえ、さらに「よい」友の会とするために、ご意見、ご要望を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 友の会ブログを開設しました。

博物館や友の会の活動を発信するだけでなく、会員の皆様や博物館に関心を持ってくださる多くの方々の情報交換や交流の場となるような構成を目指します。URLアドレスは下記の通りです。 <http://hakutomo-saitama.at.webry.info/>

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会ブログ

県立博物館ホームページの友の会欄からもリンクされています。閲覧されてコメント欄でご意見、感想など積極的にお寄せください。

また友の会専用のメールアドレスも設定いたしましたのでお問い合わせや連絡の際にご利用ください。

[hakutomo-social@memoad.jp](mailto:hakutomo-social@memoad.jp)

(このアドレスは会員のみ公開)

## 友の会Webチーム大募集

友の会ブログの企画・編集・テクニカルアドバイザーを会員の皆様から募集します。楽しいブログ作りにお力をお貸し下さい。関心のある方は下記メールまでご連絡ください。

[hakutomo-social@memoad.jp](mailto:hakutomo-social@memoad.jp)

# 宮大工さんと見る埼玉の古建築

奈良・薬師寺の復原にもかかわっておられた宮大工さん、大森健司さんにご一緒していただき、金鑽神社（神川町）、慈光寺（ときがわ町）、安楽寺（吉見町）、喜多院（川越市）、広徳寺（川島町）をまわって、県内・古建築の見るべきポイントを教えていただきます。奈良、京都でも通用する知識を、モノにしてください。

宮大工さんに古建築を教えていただくなんて、二度とないチャンスかも～！

- ◇金鑽神社多宝塔 <重文> 天文3年（1534）建築か
- ◇慈光寺開山塔 <重文> 天文25年（1556）建築か
- ◇安楽寺三重塔 <県指定有形文化財> 江戸初期
- ◇喜多院慈恵堂・多宝塔 <県指定有形文化財> 寛永16年（1639）建立
- ◇広徳寺大御堂 <重文> 室町末期

ご案内 大森建築設計事務所 大森健司さん

実施日 平成19年6月16日（土）

集合 午前8時 JR大宮駅東口・埼玉りそな銀行大宮支店前（駅から5分）

参加費 5,000円（バス・資料代等）＝当日持参

昼食はかならずご持参ください。（お弁当が入手できないことがあります）

コース 大宮＝本庄児玉IC＝金鑽神社＝東松山IC＝安楽寺＝慈光寺＝東松山IC＝川越IC＝喜多院＝広徳寺＝大宮駅 <解散>

お申込みはハガキに住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し（同じバス希望の場合は同じハガキで）6月8日（金）必着にて〒343-0041 越谷市千間台西2-17-16 宮川進まで。 [hakutomo-social@memoad.jp](mailto:hakutomo-social@memoad.jp)でも可  
お申込みいただいた方はご参加いただけます。ご返事はさしあげません。

◎お問合せはTEL&FAX 048-975-9139 宮川（TELやFAXによるお申込みは不可）

◎当日緊急連絡 090-4139-2740 宮川

◎キャンセルはご遠慮ください。会員限定イベントですが、ご家族、お友達をご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会



平成19年6月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

## 私・まちづくりやが活用したい博物館の資源！

Sai 下谷 寛子

「まちづくり」とは  
まちづくりが始まったのは昭和60年代以降。  
当初は都市計画的なハード整備をさす言葉だ  
ったが、現在では博物館で行うイベントやまち  
おこしなどのソフト整備や、それらを機能させ  
る仕組みづくり、人材育成まで広く含めること  
が多い。

「まちづくりキーワード事典第2版」(学芸出版社)  
より抜粋整理

まちづくりとは何か。実は、明確な定義がある  
ものではありません。左枠内説明のように、言葉  
通り「まちをつくる」ことに関係する事柄すべて  
を含むようなとらえかた、使われかたをします。  
たとえば、私は主に文化遺産の活用企画を立てる  
コンサルタント業を行っていますが、この文化遺

産を活用する、ということもまちづくりの一つの手法です。ですから私は「まちづくりや」  
です。以後、私の思うまちづくりと博物館の資源についてご紹介したいと思います。

## 1. まちづくりのはじめかた

まちの主役は人です。人が使い込んでいく過程でまちは魅力的に育っていきます。です  
から、まちづくりは住民が住んでみたい理想のまちを思い浮かべるところからはじまりま  
す。そして、自ら「まちをつくらう」という意識を持って活動を起こさないといけません。

ここまで書くと、まちづくりって難しそうだと思ってしまうかもしれません。でも、そ  
んなこともありません。まちづくりの大事なポイントは、立派な理想を抱くことよりも「無  
理をしないで継続すること」です。最初の一步は小さくても、ずっと歩みをとめなければ  
遠くまで歩けます。日常感じる「こうなったらいいな」という想いはすでにまちづくりの  
第一歩です。あとはその想いを原動力にして実際になにかはじめてみる。仲間を集めて、  
取り組みが大きくなればそれがまた人を呼びます。人の輪が広がるとそれはもう立派なま  
ちづくりです。「こうなったらいいな」と思うためにはできるだけ自分の身近なところにア  
ンテナを張ってまちづくりの原動力を見つけることが必要です。

## 2. 博物館の資源を活用しよう

たとえば、博物館はどここのまちにもある身近な建物ですが、活用の仕方がわからない人  
も多いように思います。これらの資源をどう活かせばまちづくりの原動力になるでしょ  
うか。

博物館には、文化財やその調査研究成果、展示用のレプリカや模型、解説パネル、学芸  
員さんをはじめ運営にかかわる人という資源があります。活用のコツは、積極的に五感をフル  
活用して関わることです。学芸員や解説員に説明をお願いしてもいいし、講座や体験学  
習に参加するのもいいです。きっと新たな世界が広がるし、新たな仲間もできると思  
います。私自身、博物館を通じて出会った人たちとのふれあいのなかで、自分のまちにつ  
いて知りたいと思ったり、愛着を感じたりしてきました。いまはそれが高じてまちづくりや  
になりました。

歴史はこうしている今も少しずつ作られている生き物です。博物館もそれにあわせて変  
化して、新しい発見や出会いのきっかけを提供してくれます。いわば、歴史と今をつなぐ  
スイッチです。私は「博物館で見ることができる資料は、単なるモノではなく歴史を知る  
ための装置」だと思っています。うまく活用すれば、どこかに必ずあるあなたの原動力を  
呼び覚ますスイッチを刺激することと思います。

<下谷さんは当会会員。地域密着型のまちづくりコンサル営業中。当会のブログ作成などにご協力いただいています>

# 友の会・平成19年度活動計画

<5月20日の総会には47名のご出席をいただき、18年度活動実績、決算、監査各報告、19年度活動計画、予算案をご承認いただきました>

## ◎活動の原則

1. 毎月1回のイベント（講演会・見学会）を原則とする。
2. 博物館講座（仮称）、学芸担当者とお茶の会を上記以外に行なう。
3. 社会貢献としての意味も視野に入れる。

## ◎イベントスケジュール

- 4月22日（日） 講演会「卑弥呼の時代と東国の古墳」 講師・前館長・高橋一夫氏（実施済）
- 5月20日（日） 講演会「最新！邪馬台国位置論」  
講師・朝日新聞元編集委員・高橋 徹氏（実施済）
- 6月16日（土） 見学会「埼玉の古塔めぐり」＝金鎖神社・安楽寺・慈光寺・喜多院・広徳寺＝  
案内・宮大工・大森建築設計事務所・大森健司氏
- 7月 講演会（予定）
- 8月 見学会「最新出土品展」
- 9月22日（土） 講演会「これだけは見ておきたい日本の仏像ベスト10」  
講師・元館長・林 宏一氏
- 10月7日（日） （社）日本建築学会関東支部埼玉支所とのコラボレーション行事
- 10月 見学会「しもつけ風土記の丘」周辺 案内・博物館・宮崎副館長（予定）
- 11月 講演会 特別展「お伊勢さん」関連 講師・博物館・杉山学芸主幹（予定）
- 12月 見学会「秩父の文化財」 案内・大久根さきたま史跡の博物館学芸主幹（予定）
- 1月 見学会「県北の文化財」 案内・博物館・昼間主席学芸主幹（予定）
- 2月 見学会「群馬県立博物館・上毛三碑等」 案内・博物館・石岡学芸主幹（予定）
- 3月 講演会「埼玉のレッドデータブック」 講師・自然史博物館・松本学芸主幹（予定）

## ◎博物館講座

- 初心者のための鑑賞法入門講座（2時間×2～3回をイメージ）  
（例：名剣、能面、甲冑、古陶、庭、民俗関連、副葬品、鏡～）
- 古文書読み方講座（前回の岸学芸主幹の特別ミュージアムトークの際に20人ほど開催希望あり）

## ◎特別イベント

- 遺跡発掘現場見学会 ○お祭り見学 ○博物館との意見交換会
- 学芸担当者との懇談会 藤野館長、井上主席学芸主幹にもご参加いただくようお願いしております

## ◎ブログによる友の会PRの推進

ブログによるPRを推進し、非会員の方々への当会活動紹介で新入会員獲得をはかる

## さらに、友の会の仲間を増やしましょう！

昨年4月に創立以来、おかげさまで3月末の会員数は228。予想以上に博物館へのご支援をいただきました。お礼を申し上げます。

「数は力なり」という言葉がありますが、まだまだ「数」を誇るまでにはいたっていないのでしょうか。

博物館から「うちにはこんなに支持者がいるよ」といっていただくには、まだまだ頑張らねばなりません。

今年度のスケジュールも決まりました。こんなイベントがあるからと、あなたのお友達に友の会へのお誘いをお願いできませんでしょうか。

会員を増やすに一番なのは、会員からの「ご紹介」です。逆の立場でお考えいただければ、お分かりだと思います。知らない団体へ入るのに友達が先に入っていたら、友達がすすめてくれたら、どんなに入りやすいことか。

ぜひ、あなたのお友達のご紹介をお願いいたします。友の会のチラシや入会申込み、振替用紙など、必要でしたら、お送りさせていただきます。博物館内友の会へご連絡ください。

## バックナンバーのご希望は～

ニュース、レジュメなど、当会発行物バックナンバーのご希望については、会員サービスの一環として、できるだけ、お応えしたいと考えております。ただ、当会には常勤も非常勤も、事務担当者は全くおりませんことをご了承のうえ、お申し付けください。

ご希望のものにつきましては、友の会のイベントの折、あるいは博物館ロビーでの受付実施のとき、(土日祝)に、メモ用紙に件名、ご本人のお名前・ご住所をご記入いただいたものをお渡しく下さい。またはおハガキで博物館内友の会あて、お申し出いただいても結構です。

郵送にて、お届けいたしますが、現物がなくコピーも差し上げられないことも考えられます。また、コピー等に日数がかかる場合もありますのでお許しく下さい。

<上記ルール以外のお申し出は現在の事務処理能力から、お受けさせていただきません>

☆当会のブログをごらんいただけましたか？

アドレスは <http://hakutomo-saitama.at.webry.info/>

「埼玉県」のホームページから「埼玉県立歴史と民俗の博物館」へ進み、「友の会」へリンクしていただくこともできます。ぜひ、ごらんになってください。

☆サポーター募集は常時行なっております。

あなたも、博物館への応援に「手を貸して」いただけませんか。博物館内友の会へご連絡を！

# 口承文芸の世界

初 心 者 の た め の < 民 俗 学 > 入 門

◎口承文芸って、イキナリ、難しそうな言葉ですが、浦島太郎や花咲爺などの世界のことなんですネ。

◎いま、インターネットの時代に消えてゆく運命のもののようにもありますが～

◎口承文芸の世界とは何なのか～を通して、<民俗学>とは何なのか～も、いまこそハッキリお分かりいただけます！

講 師 齊 藤 修 平 (埼玉県立歴史と民俗の博物館・専門員)

と き 平成 19 年 7 月 22 日 (日) 午後 1 時 30 分～3 時

と ころ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂 (東武野田線大宮公園駅下車 5 分)

参加費 無料

お申込み 6 月 22 日以降、お電話で上記博物館へ

(048-645-8171) 友の会会員の方は会員番号を！！

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成19年7月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

## 発掘調査の醍醐味

副館長 宮崎朝雄

私が考古学を始めたのは、昭和43年、大学に入ってからです。受験からの開放感に浸りながら、大学4年間に楽しみながら勉強できるものはないかと考えていた時に、考古学研究会から勧誘があり、深く考えることもなく入会いたしました。以来、大学時代は、授業出席日数より多い年間100日以上が発掘調査三昧の日々を送り、4年間で5年間になりましたが何とか卒業することができました。

最初の発掘調査は、春日部市の花積貝塚です。花積貝塚は、下層に縄文時代前期の貝層、上層に中期の貝層が堆積し、前期と中期の文化層が層位的に確認された遺跡として著名であり、下層出土土器は「花積下層式」として縄文土器編年の標識資料にもなっています。入学して間も無い4月下旬、3年生の「授業の無い者は発掘に行くぞ」のかけ声とともに、1～3年生10数名が発掘調査に参加しました。調査区域は、住宅建設に伴い壊される約500㎡の狭い範囲でしたが、前期と中期の竪穴住居跡計20数軒と厚さ約50cmの貝層が検出され、多量の土器、石器と人骨1体が出土しました。調査担当者や上級生から、土層の違い、貝層の掘り方、写真撮影、記録方法などを教わり、「スコップに土器が当たるとドキッとする」など冗談を言い合いながら楽しく調査したことを覚えています。また、調査では最初に試掘溝を入れて住居跡や貝層を確認しますが、考古学では試掘溝を「トレンチ」と呼ぶのだと教わり、当時は学問的な表現だと妙に感心をした記憶があります。

大学時代最後の発掘調査は、入間市の坂東山遺跡でした。この発掘調査は、国道299号線バイパス建設に伴う緊急発掘調査で、調査担当者の1人として参加しました。遺跡近くの公民館を学生用の宿舎として用意することができ、地域の人達と一体化した発掘調査になりました。大学生と地元の人達合わせて約40人が、7～8月、暑い盛りの2ヶ月間に、調査区域約7,000㎡を一気に調査しました。調査中には、遺跡見学会を開いたり、周辺の遺跡巡りや盆踊りなど地元の行事にも多数参加しました。調査の結果、縄文時代中期～後期の竪穴住居跡35軒、土坑65基などが検出され、多量の土器、石器が出土し、人骨1体が発見されました。人骨は壮年の男子で、大形の縄文土器を利用した甕棺墓の中に、頭蓋骨を中心に大腿骨などが改葬されていました。鑑定のために大学へ送るまでの1週間余り、人骨とともに過ごした宿舎の夜は何とも不気味な思いがありました。

当館の第1展示室に入ると、花積貝塚の屈葬人骨出土写真や坂東山遺跡の甕棺、土器など、発掘調査の成果が展示に活用されています。発掘調査には苦楽ともに様々な思いがありますが、博物館の展示・活用に現れた成果を見る度に、発掘調査の醍醐味をいっそう感じる事ができます。

# 第2回ミュージアムグッズフェア

## 友の会共催で開催！

**7月24日（火）から8月5日（日）までです。ぜひ、お越しください！**

昨年夏、全国でも初めてのイベントとして開催され、好評を博した「ミュージアムグッズフェア」が今年も開催されます。

今年は昨年の売れ筋グッズである福岡市博物館の「金印スタンプ」などに加え、この時期に開催中の企画展「埼玉遊覧案内」にちなむグッズが登場して、展示・即売されることとなりました。

この企画展にちなむものとしては次のようなものがあります。

- ◇川越、見沼、荒川、飯能などの鳥瞰イラスト
- ◇村松昭さん画く山、川の散策地図
- ◇熊谷鳥瞰図が包装に使ってある熊谷・中家堂の瓦せんべい
- ◇日本工業大学のSLマグカップ、Tシャツ

鳥瞰図は一般に売られていないため、売り切れ必至だとかのうわさもあります。

また、金印スタンプや福島県文化財センター白河館〈まほろん〉の双魚佩しおり、神戸らんぷミュージアムの「洋燈（らんぷ）」、群馬県立歴史博物館の「杏葉ストラップ」「埴輪馬ピンバッジ」などは今年もはやくからの売り切れが予想されます。

なにしろ、ミュージアムグッズというのは、原則的に、その博物館に行かねば手に入らないものです。

それが、この博物館で購入できるのです。昨年は金印スタンプを買いに茅ヶ崎からお越しになった方がありました。そして、残念ながら「売り切れ」でお買い求めいただけなかったのです。

こんな機会はめったにありません。

会員の皆さまに何らの特典をおつけさせていただけないのは申しわけありませんが、ぜひ、ご家族づれでお越しいただき、ご希望のグッズをご入手してくださいませよう、よろしく願いいたします。

今回もグッズ売上げの純益は友の会にいただくことになっています。

会員の皆さまのお買い上げが、友の会の財政をうるおし、会の発展につながることとなります。そういった意味でも、あなたのご来場、ご購入をお待ちさせていただいております。

よろしく願い申し上げます。

# あなたも、グッズフェアのお手伝い ご協力いただけませんか？

ミュージアムグッズフェアの販売担当は、私たち「友の会」です。

昨年はまったくの初めてでのことで、いろいろと苦勞がありました。

今年はすこしはやりやすくなるかと思われます。しかし、ある程度の人数が必要です。

無償ボランティアではありますが、あなたもこのイベントにご協力いただけませんか？

博物館のためになります。そして、友の会のためでもあります。

具体的にはフェアが開催される7月24日（火）から8月5日（日）までのあいだ、（7月30日（月）をのぞく）9時から4時30分まで、あなたのご都合のよい日、グッズ販売のお手伝いをしていただきたいと思います。毎日4～5名のグループで担当していただくことになります。

ご協力していただけます方は、ハガキかFAXで「希望日（複数可）」をシフト担当の佐貫正明さんまで、ご連絡ください。（希望者多数の場合、せつかくのお申し出を拝辞することもあるかも知れませんので、その際はお許しをお願いいたします。）

佐貫正明さん FAX&TEL 048-668-4136 〒331-0812 さいたま市北区宮原町3-220-401

## 速報！ 友の会、今後のスケジュールについて

☆9月9日（日） 午後1時30分～ 藤野龍宏館長を囲む「友の会」お茶の会  
～本年4月に就任された藤野館長と親しくお話できる  
お茶の会です～

☆9月29日（土） 午後1時30分～ 林 宏一元館長の講演会  
「これだけは見ておきたい 日本の仏像ベスト10」  
～いま、仏像、仏教がブーム。仏教美術の専門家である  
林・元館長（現・東京家政大教授）の選ばれる「見てお  
きたい」仏像は？

## 見学会に保険はこれだけ、かけています

見学会のご参加者に対する保険は、このように掛けております。（保険料1人あたり100円）

☆参加者のケガに対し 1名あたり 死亡・後遺障害 1,000万円 入院1日 4,500円  
通院1日 2,500円

☆主催者・参加者の負った賠償責任に対し 1名あたり1億円、1事故あたり1億円限度

☆東京海上日動保険（株）代理店・坂本さんにお世話になっております。

# みんなで見に行こう！最新出土品展

とき 平成19年8月26日（日）

集合 午前9時10分・JR大宮駅・改札前・「豆の木」

解説 同博物館・学芸担当

9月2日（日）まで、行田市の埼玉県立さきたま史跡の博物館で開催の

「最新出土品展—地中からのメッセージ」を、みんなで見に行きましょう。

ふじみ野市東台遺跡のナイフ形石器（旧石器）、蓮田市久台遺跡の亀形

土製品（縄文）、東松山市反町遺跡の水晶工房跡からの水晶・碧玉など（古墳）、

桶川市前原遺跡の水晶・碧玉など（古墳）、川島町白井沼遺跡の鳥形土製品

（古墳）など、昨年に県内の遺跡で発見された注目遺物が展示されています。

◎ご参加 どなたもご参加いただけます ◎参加費 200円（資料、保険料）

<交通費・大宮⇄吹上 960円（往復）、バス代 400円（往復）、

博物館入場料 200円はご自弁。弁当もご持参ください>

◎展示観覧後、関東の石舞台といわれ、石室内に入れる八幡山古墳などを見るオプションツアーを実施いたします。（自由参加）

◎歩く距離はオプションツアーこみで約6KM。オプションツアーなしで約3KM。  
（いずれも風土記の丘内散策は別としての計算です）

◎ご参加お申込みはハガキに住所・氏名・電話番号・友の会会員は会員番号を記入、  
〒343-0041 越谷市千間台西2-17-16 宮川進へ（問合せ TEL&FAX 048-975-9139）  
<8月20日（月）までにお申込みください。お申込みに対するご返事は差し上げません>

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会



平成19年8月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

## 郷土史研究の楽しみ

志木市郷土史研究会 井上國夫

約40年程前、東京深川から志木市に移住しました。歴史や考古学の本を読むのが好きで、都心の会社の往復には読書三昧を楽しんでいました。昭和47年に志木市郷土史研究会が発足し、早速考古部会に入会して勉強を始めました。やがて物足りなくなり、埼玉県郷土文化会に入会しましたが満足できず、更に武蔵野文化協会の考古部会に入会しました。ここで先日亡くなられた吉田格先生に2、3年ご指導を受けましたが、会社が多忙となり、20年間例会には出席できない「会社人間」になってしまいました。しかし地元の郷土史研究会に絞って勉強を続けていました。

やがて市史ブームになり私のような者まで市史編纂の仕事に狩り出され、市毛勲さん（考古部会長）、小久保徹さん（編纂委員）の下で調査委員として参加することとなり、志木市史全巻完成までの11年間考古と民俗を勉強することができました。その間、郷土史研究会も次々と高齢化のため代わりして、4年程前に会長のお鉢が私に回ってきました。そこで会長を置かず、幹事を4人置いてその代表となり、地元の人が会長になるべきと主張して、会長の席を空けて置くことにしました。しかし会運営と会員の増加をどのようにしたら良いかを考えるため、20年間休んでいた埼玉県郷土文化会と武蔵野文化協会の例会に参加して、他の郷土史研究会の運営ノウハウを学ぶことにしました。

一方、定年になってから郷土史の面白さが分かってきました。「継続は力なり」とは良く言ったもので、研究の種や壺が次々と見えてきました。その中の一つである「引又道とその道しるべ」を徹底的に追ってみようと、運動のためすべて自転車で走破することにしました。片道25km以内であれば自転車で行くことに決め、先輩たちが調査した志木市史をベースに、近隣の市史や調査報告などを参考にして、この7、8年間引又道を走りました。その間、埼玉県文化団体連合会郷土部会での中間発表や郷土史仲間の連絡で続々と増えて、45基からスタートしたものが行方不明を含めると60基になろうとしています。写真やビデオを撮り市内でも2回発表しましたので、そろそろ纏めようかと思うようになりました。そして、次の種を蒔くときがきました。

埼玉県郷土文化会と武蔵野文化協会の例会に5、6年間出席して、多くの郷土史仲間ができたことと役員として深入りできましたので、郷土史会の運営ノウハウを実施する 때가きました。まず毎月1回の例会を公開講座にしました。別にウイークディに月1回郷土史基礎講座を開講しました。その結果、昨年度末から現在7月末までに20名の新会員を獲得することができました。郷土史は難しいものと思っていた人達が、公開講座を聞いて参加する気になったようです。事務局は多忙になり嬉しい悲鳴を挙げています。

以上

(井上國夫さんは当・友の会会員です)

今年度、5月と7月に開催した講演会におけるアンケートの結果をお知らせいたします。今後のイベント企画の参考にさせていただきたいと考えております。

## H19. 5. 20 歴史講演会アンケート

今後の参考とさせていただきたく、下記にお答えくださいますようお願いいたします

回収数  
72

- この講演会をお知りになったのは～ (該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
  - 新聞(紙名: ) (2) 案内のチラシ<sup>(19)</sup> ① 入手の場所は: 博物館<sup>(10)</sup> ① 友人<sup>(2)</sup> ②
  - インターネット「考古学通信」(HP?メール) (4) 友の会のニュース ④⑦
  - 博物館のホームページ ① (6) 友の会のブログ ⑥
  - その他<sup>(8)</sup> (具体的に: 友人 ⑦ いきがわ大学伊奈学園 ① )
- あなたは邪馬台国はどこにあったとお考えですか～ (該当の番号に○をおつけください)
  - 北九州<sup>(23)</sup> ② (2) 畿内<sup>(27)</sup> ② (3) その他 (具体的に: 沖縄 ① 出雲 ① 東遷説 ③ )
  - わからない<sup>(15)</sup> ① NA ②
- 上記の設問2. で(1)、(2)、(3)に○を点けられた理由は～ (該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
  - 当時、高度な文化をもっていた朝鮮半島に近いから<sup>(18)</sup> ① (2) 魏志倭人伝の記事から考えて<sup>(12)</sup> ②
  - その時期の遺跡分布から考えて<sup>(14)</sup> ④ (4) 三角縁神獣鏡の出土状況からみて ⑤
  - 古墳の発生を考えると<sup>(8)</sup> ⑧ (6) 弥生時代の出土鉄器の分布から考えて ⑤
  - その他 (具体的に: ① 銅の出エ、② ロマンを思い浮かべたので (本当は畿内なのではないか)、③ 考古学の状況、④ 考古学上は決着がまだ出エか否か、⑤ 今日の日付をいって )
- 埼玉県古代史における次のようなテーマのなかで、特にどれにご興味をお持ちでしょうか。(該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
  - 埼玉県内の旧石器時代<sup>(9)</sup> ⑨ (2) 埼玉県内の貝塚<sup>(9)</sup> ⑨ (3) 埼玉の環濠集落<sup>(12)</sup> ⑫ (4) 埼玉県内の方形周溝墓<sup>(13)</sup> ⑬ (5) 埼玉県内の発生時期の古墳<sup>(19)</sup> ⑱ (6) さきたま古墳群<sup>(29)</sup> ⑲ (7) 埼玉の群集墳<sup>(7)</sup> ⑦ (8) 埼玉の式内社<sup>(10)</sup> ⑩ (9) 文献にみる武蔵の古代<sup>(15)</sup> ⑮ (10) 県内の古代寺院<sup>(17)</sup> ⑰ (11) ハニワ<sup>(5)</sup> ⑤ (12) 古代の道路<sup>(15)</sup> ⑮
  - 万葉集にうたわれた武蔵<sup>(14)</sup> ⑭ (14) 埼玉の古代地形<sup>(15)</sup> ⑮ (15) 渡来人と武蔵<sup>(31)</sup> ⑳
- ご記入いただきましたあなたについて～
  - お住いは～ (該当の記号に○をおつけください)
    - ア. 埼玉県内 (具体的に: ⑦① うち、さいたま市<sup>(45)</sup> ④⑤ 上尾市<sup>(3)</sup> ③ 久喜市<sup>(2)</sup> ② 蓮田市<sup>(2)</sup> ② ……)
    - イ. その他 (具体的に: ⑦ うち、柏市<sup>(1)</sup> ① )
  - 今日はどのようにお越しになりましたか～
    - ア. ご自宅から歩いて<sup>(9)</sup> ⑨ イ. ご自宅から自転車で<sup>(23)</sup> ⑲ ウ. ご自宅からクルマで<sup>(8)</sup> ⑧
    - エ. 電車で<sup>(31)</sup> ⑳ (ア) 下車されたのは大宮駅<sup>(6)</sup> ⑥ (イ) 下車されたのは大宮公園駅<sup>(16)</sup> ⑱ NA ⑨
    - オ. その他 (具体的に: )
  - ご年齢は～
    - ア. 20歳代<sup>(1)</sup> ① イ. 30歳代 ウ. 40歳代<sup>(2)</sup> ② エ. 50歳代<sup>(8)</sup> ⑧ オ. 60歳代<sup>(40)</sup> ④⑤ カ. 70歳代<sup>(20)</sup> ②③ キ. 80歳代以上<sup>(1)</sup> ①
  - 性別は～
    - ア. 女性<sup>(28)</sup> ⑲ イ. 男性<sup>(44)</sup> ④④
  - 友の会の会員ですか～
    - ア. 入会している<sup>(48)</sup> ④⑧ イ. 入会していない<sup>(17)</sup> ⑱ ウ. 入会を検討中<sup>(5)</sup> ⑤ NA ②

9月実施予定の「館長とのお茶の会」は11月24日(土)に延期させていただきます。詳細はあらためてお知らせ申し上げます。

## H19.7.22・民俗・講演会アンケート集計

参加者 60、回収数 36 以下□のなかの数字は回答数

- この講演会をお知りになったのは～(該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
  - 新聞(題名:朝日 5) (2) 案内のチラシ 6 (入手した場所は: 館 4 不明 2)
  - 友の会ニュース JUNO 22 (4) 友の会のブログ 4
  - その他(具体的に: ぶらりと来て 1 民話グループの情報 1 友人からのメール 1)
- あなたは「民俗学」のどの分野に興味をお持ちですか? (該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
  - 衣生活 2 (2) 食生活 6 (3) 民家 4 (4) 民具 2 (5) 祭礼 10 (6) 年中行事 8 (7) 通過儀礼 5
  - 儀式 7 (9) 家族制度 5 (10) 社会制度 8 (11) 社会集団 4 (12) 遊技 1 (13) 競技 0
  - 伝統芸能 9 (15) 口承文芸 13 (16) 説話 8 (17) 神話 15 (18) 民話 14 (19) 童話 4
  - 伝説 14 (21) お伽話 3 (22) 歌曲 1 (23) 諺・謎 4 (24) 民間信仰 12 (25) 神道 3
  - 仏教 11 (27) 霊魂と来世 5 (28) 妖怪変化 2 (29) 魔術 1 (30) 民間療法 3 (31) 民俗衣装 3
  - 常民 3 (33) ハレとケ 6 (34) 都市伝説 4 (35) 柳田学 9 (36) 折口学 5
  - その他(具体的に: 衣胞(えな) 1 宮本常一 1 宮田登 1)
- 県下の次のような行事のうち、今後、あなたがお覧になりたいものがあればお教えてください。(該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
  - 秩父祭り 17 (2) 横瀬の人形芝居 5 (3) 猪俣の百八燈 8 (4) 鷲宮の催馬楽神楽 13
  - 小鹿野の歌舞伎芝居 16 (6) 吉田の龍勢 12
  - その他(具体的に: )
- 上記のような行事について、友の会として(バスツアーなどで)団体で見学することについて、いかがお考えですか?(該当の番号に○をおつけください)
  - 団体での見学を考えてほしい。 22
  - 個人として見に行く方がよい。 8
  - その他(具体的に: )
- ご記入いただきましたあなたについて～(該当の記号に○をおつけください)
  - ご年齢は～
    - ア. 20歳代 2 イ. 30歳代 1 ウ. 40歳代 1 エ. 50歳代 3 オ. 60歳代 20 カ. 70歳代 9 キ. 80歳代以上 0
  - 性別は～
    - ア. 女性 7 イ. 男性 29
  - 博物館へは、通常、一年に何回くらい、お越しになりますか?
    - ア. 一回程度 6 イ. 2～3回 1 ウ. 4～5回 5 エ. 2ヶ月に一回程度 4 オ. 年に10回程度 8
    - カ. 一ヶ月に1回程度 8 キ. その他(具体的に: ボランティアで週 11、月 31、)

これだけは

見ておきたい

# 日本の 仏像

これだけは見ておいてほしいという仏像・ベストテンのリストを、

仏教美術がご専門の林 宏一先生に作っていただきました。

先生厳選のリストをご参考に、仏像をお巡りになれば、あなたは日本の  
仏像の美を理解するための最短コースを歩むことができます。

講師 林 宏一氏（東京家政大学教授・元埼玉県立博物館館長）

とき 平成19年9月29日（土）午後1時30分～3時

## ベスト10

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

（東武野田線・大宮公園駅・下車5分）

参加無料

お申込みは8月29日以降、お電話（048-645-817  
1）で博物館へ。友の会会員は会員番号を。（定員100名さま）

主催・埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成19年9月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

## 海幸・山幸の民人考 ～渚を追って生きる～

主席学芸主幹 井上 肇

今年の夏もようやく立ち退いてくれるようである。多くの日本人は、ついに経験したことのない暑さに降参してしまいそうになっていた。現に、多くの方々が熱射病に倒れた。私は未だに、その状況を科学的には理解できても、弱者に襲いかかる過酷な社会的現実を納得できないでいる。

さて、話は一気に遡る。縄文時代のことである。そして、我が遠祖達のことである。地球の温暖化は、今に始まったことではない。1万年前になると、地球の表面は熱を帯びてくる。陸地の氷は溶け出し、海に流れ出す。次第に海水が増える。日本列島の水際も徐々に変化していく。東京湾は今ほど広くなく、現在の秩父荒川の谷のような形状で関東平野に細く突き刺さっていた。考古学や自然地理学では、現在の中川から渡良瀬川方面に伸びる大きな溪谷を「奥東京湾」、途中から分かれて、現荒川方面に枳の棘のように入り込む小さな谷を「入間湾」と名付けた。そして、この時代に起こった海の拡大現象を、「縄文海進」と呼んでいる。奥東京湾は、さいたま・栃木・群馬県境になっている渡良瀬遊水池一帯まで達したとされており、栃木県藤岡町の篠山貝塚が最奥部の貝塚として歴史教科書などでよく知られている。篠山貝塚は、約6,000年前の関山式期である。

いっぽう、入間湾を見てみると、最奥部の貝塚は、約7,000年前の縄文時代早期末の上尾市平方貝塚であり、6,000年頃には、富士見市の史跡水子貝塚付近に貝塚の集中が移る。

地理学者東木竜七は、大正15年に公にした論文『地形貝塚分布より見たる関東低地の旧海岸線』の中で、貝塚が残されるタイミングは、海が退き始めた時の湾頭干潟が出来る時に限られているとした上で、縄文海進は当時ようやく地質学的に確認された土地の隆起沈降現象と土砂堆積等の作用によるものであるとの結論を導き出している。

実際、関東平野は、造盆地運動が顕著なところであり、加須市から茨城県古河市にかけての中川低地一帯を中心に土地の基盤層が小皿のようになりながら、確実に沈み込んでいる。

先頃開催された埼玉県遺跡発掘調査報告会で発表された川島町東野(ひがしや)遺跡は、桶川と川島町とに挟まれた荒川河川敷の中にある。現地地表下約4.5mで、海拔8.8mのところから縄文時代前期末の十三菩提式土器を持つ住居跡が7軒見つかった。東野遺跡をさらに2km遡った河川敷に縄文時代前期後半の諸磯b・c式期の芝沼堤外遺跡がある。また、平方貝塚の少し上流の川床から縄文時代中期初頭の五領ケ台Ⅱ式土器が発見されている。つまり、上流から下流に次第に遺跡の時期が新しくなっている。縄文時代前期末から中期初頭の遺跡は、埼玉県下には極めて少ない状況の中で、近年荒川低地から次々に発見されている事実は注目に値する。

以上述べてきたことを重ね合わせてみると、以下の仮説を導き出すことが出来る。

即ち、今から約7,000年前には、地球の温暖化で海面が上昇し、上尾市平方貝塚付近まで入り込み、その後次第に海は退いた。篠山貝塚が作られ、奥東京湾がもっとも広がった6,000年頃には、入間湾は富士見市辺りまで退き、さらに5,000年前になると、現彩湖の下流あたりに渚ができたと推定される。海が縮小してできた低地は、河川が乱流しながらも全体的に乾燥し、陸地化が進んだ。縄文人は、環境の変化で生まれた新開の居住空間である荒川低地に進出し、東野遺跡、芝沼堤外遺跡などを次々に営みながら、海の幸を求めて退く海に導かれるようにジリジリと南下していった。さらにこの動きは、内陸部の関東山地と台地の境に形成された山の幸ゾーンの拡散を刺激することで、次にくる縄文代中期の繁栄を創出していった……かも知れない、おしまい。

## ご協力ありがとうございました。第二回グッズフェア。

7月24日（火）から8月5日まで、博物館ロビーにて開催の第二回ミュージアムグッズフェアは、会員のみなさまのご協力により、約49万円の売上げをえて、無事終了いたしました。博物館からの話題提供にもなったかと思われます。当会の利益は約7万6千円となりました。

ご奉仕いただきました方々はまったくの無償ボランティアであり、この利益は人件費の見返りでもあります。活動資金として、大切に使用させていただきます。ご奉仕のみなさま、ありがとうございました。

### **埼玉住い・まちづくり交流展 2007 のイベントにご参加を！**

別ページでご紹介の「調べる」連続講座も、じつは「埼玉住い・まちづくり交流展」の一環なのです。（社）日本建築学会関東支部埼玉支所との共催で行なうこととなりましたので、ぜひ、ご参加をお願いいたします。

そして、この同学会主催の交流展では次のようなイベントも開催され、友の会会員の方のご参加が待たれています。以下のイベントへもご参加をお考えください。

#### 1. パネルディスカッション「すまいの近代化と日本建築とまちなみ」

＜既存の景観資源を活かすためには、歴史に対する認識がかかせません。すまいの近代化、日本建築、まちなみをキーワードとしたパネルディスカッション＞

・10月6日 午後2時～4時半

・場所は博物館講堂 定員100名（当日先着順） 資料代・別途

#### 2. 景観まちづくり情報交換会2

＜埼玉県庁が開設した景観データベースに関する内容と活用について、関心の高い市民や専門家、景観施策担当者向けの集まり＞

・10月6日 午前11時～午後1時

・場所は上記と同じ 定員100名（申込み先着順） 参加費無料 事前申込み要

・問合せと申込み 都市づくりNPO さいたま TEL&FAX 048-876-1781

#### 3. 博物館の建物見学会と講演

＜前川国男氏設計の名建築である当博物館の見学会と担当された中田氏の講演＞

・10月7日 午後2時～4時

・定員30名（申込み先着順） 集合は講堂 参加費無料 館内入館料要 事前申込み要

・講師 中田準一氏（前川建築設計事務所） コーディネーター 八代克彦氏（ものつくり大学）

・問合せと申込み （社）日本建築学会埼玉支所 TEL 048-866-8257

# 楽しい古文書初歩講座

古文書をひと文字ずつ、読み解いていくことは、歴史の解明につながる可能性を秘めた、まことに知的なゲームでもあります。今回はビギナー向け、江戸時代の文書をテキストとした三回の講座です。初めての方の入門編として最適です。

講師 佐藤啓子先生（川島町町史調査員、ふじみ野市文化財保護審議委員、元・上福岡市市史編纂委員）

とき 平成19年10月4日・18日・11月1日（いずれも木曜）午前10時～12時

定員 30名 定員オーバーの場合は抽選とさせていただきます。 受講料・無料

場所 埼玉県立歴史と民俗の博物館・講座室

受講お申込み （3回ともご出席いただける当会会員の方に限る） 往復ハガキに住所・氏名・電話番号（あればF

A X番号）、返信面にあて先を明記し、9月18日（火）までに〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-1

219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。参加可否の通知は20日（木）に発送いたします。

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

# 民具、建物、まちの調べ方

古い民具、建物、まちを見ても、ただ、感心しているだけでは、「ちょっと、どうかな」と思われませんか？

その来歴やホントの価値をどう調べるか～それぞれの専門家に県内の事例をもとにお教えいただきます。

---

講師	民具・生活を調べる	宮本八重子氏	(日本民具学会)
	建物を調べる	横山晋一氏	(ものづくり大学)
	まちを調べる	伊藤庸一氏	(日本工業大学)

---

とき 平成19年10月7日(日) 午前10時～13時

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館・講堂

参加費 無料

定員 100名(先着順)

申込み ハガキに住所・氏名・電話番号(ある方はFAX番号も)・友の会  
会員の場合は会員番号を明記し、10月1日(月)までに〒330-0803  
さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友  
の会へ。受講いただけない場合のみ、10月3日(水)までにご連  
絡いたします。連絡ない場合はご参加いただけます。